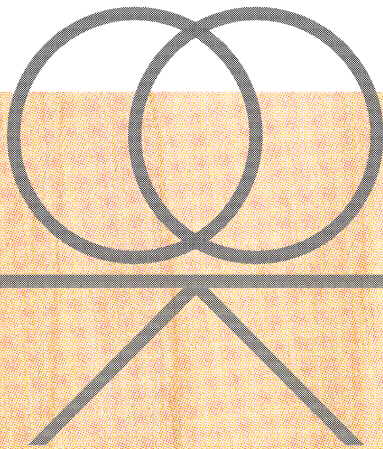


保存版



イワテバコ特別編

K U Z U M A K I B A K O

# くずまきバコ

くずまきのまちと、ひとと、しごとと。



森の中のツリーハウス2階から「ヤッホー」と叫ぶ子どもたち。7日間の日程で自然の中で仲間との絆を育んだくずまき高原牧場のサマーワンダーランド＝8月12日

## 特集 くず まき まち 葛巻町で暮らす



取材協力：葛巻町

制作：岩手日報社広告事業局

IWATE NIPPON  
CO.,LTD

岩手日報

岩手日報創刊  
一四〇周年  
記念

# 地方から未来創造をリードする 「くずまきライフ」



岩手山に続く山並みを背景に風車3基が稼働。そのそばで乳牛がのんびりと草をはむ袖山高原

ミルクとワインとクリーンエネルギーのまちとして知られる岩手県の葛巻町くずまきまち。

県北地方のほぼ中央に位置し、袖山高原の展望台に立つと、標高1000級級の山並みの向こうに、西側には岩手山や安比高原、東側には北三陸の海が見渡せる。

人口約6600人。自然の恵みに感謝し、地域資源を最大限に生かそうとする町民の知恵とたゆまぬ努力が、この小さなまちに輝きを与えた。

「食糧・環境・エネルギー」。今の世界が抱える課題に真っ正面から向き合っている。

高原の風、太陽の光をエネルギーに換え、畜ふんや間伐材なども捨てずに再利用し、新たなエネルギーを生み出す。町内の暮らしにはクリーンエネルギーが根付いている。

エネルギー政策の現実と理想の狭間で暮らす21世紀の日本で、葛巻町は持続可能な社会を目指して、地域ぐるみで、小さな一歩でも理想に近づく姿勢を貫いている。

住民の視線の先にあるのは、子どもたちに残したい未来。

大地に根差し、自然と共に生きる術を受け継ぎ、地域のつながりの中で生きる「くずまきライフ」。そこに真の豊かさを感じ取り、帰郷する人、新たにこのまちに移り住む人もいる。

共に手を携えて地方から未来創造に挑む。日本の美しい心とふるさとを次世代へ引き継ぐために。

# キーワードでひもとく くずまきの魅力

地域の資源を生かした成長戦略で、ひととき個性を放つ葛巻町。中でも21世紀の地球が抱える課題「食糧・環境・エネルギー」分野では、全国でもいち早く解決に向けたビジョンを打ち出し、政策を実行してきた。スローガンに掲げるミルク、ワイン、クリーンエネルギーのほか、移住定住や子育て支援に関するサポートも充実。人にも環境にも優しい暮らしを求めて、若い世代を中心に移住地として人気が高まっている。



Kuzumaki

## クリーンエネルギー

葛巻町の電力自給率は160%。町内では風と太陽の力で約1万5000世帯分の電気をつくっている。CO2排出量は年間で3万1100t削減。クリーンエネルギー先進地として国内外から注目されている。風力発電は袖山高原と上外川高原に合わせて15基ある。太陽光発電は小中学校や町の関連施設などに整備され、新エネルギーの啓発にも役立っている。バイオマスエネルギーは、町内の牧場から排出される牛ふんからエネルギーをつくる「畜ふんバイオマスシステム」に取り組んでいる。製材過程で発生する樹皮を利用した木質ペレットは燃やしても有害物質が出ず、土に戻っても安全な自然素材で、町内の施設の暖房設備燃料などとして普及している。そのほか、風力と太陽光、小水力と太陽光などのハイブリッド方式など、町内各地でさまざまなクリーンエネルギーシステムを見ることができる。



上外川高原

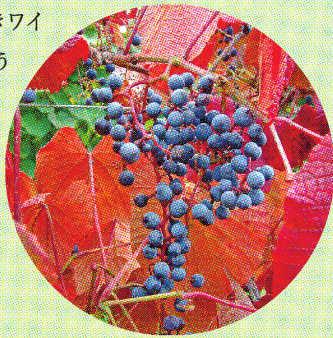
## ミルク

山間高冷地の牧場で乳牛約9000頭を育てている「東北一の酪農郷」。町の酪農の歴史は120年余りになる。上づくりから始まり、健康的な環境でのびのびと育った乳牛からしぼった新鮮なミルクは、自然そのままのおいしさ。くずまき高原牧場では、乳製品を販売しているほか、乳しぼりや子牛の世話などを体験できる。



## ワイン

地元産の山ぶどうを原材料に使った「くずまきワイン」。コンクールで多数の受賞歴を誇る。山ぶどうは栄養価が高いことで知られ、県北では古くから「さんと見舞い」(産後の女性のお見舞い)にも使われてきたほど。町は1986(昭和61)年、第三セクター・葛巻高原食品加工株式会社を設立し、本格的にワインの醸造を始めた。



## くずまきテレビ

2010年に町内各世帯へ光ファイバーを引いて、ケーブルテレビ化による地上デジタル放送受信環境と高速ブロードバンド利用環境を整備。併せて、自主放送「くずまきテレビ」を開局し、岩手大学放送研究部の学生をキャスターとしたニュース形式の番組放送、データ放送による生活情報や行政情報の発信、町議会中継放送などを行っている。取材・編集した番組は、毎週土曜日に更新している。



## バイオリン教室

夢のあるまちづくりの一つとして、町内の保育園、児童館に通う年長児を対象にバイオリンを学ぶ時間を設け、音楽に触れる機会を増やしている。町はバイオリンを全員に貸し出し、自宅に持ち帰って練習することも認めている。10月に町内で開かれる音楽会をはじめ、町内のイベントなどで練習の成果を披露する。



## IJUターン

葛巻町に移住、定住したい人に対して、町はさまざまな支援策を用意している。遊休農地などの情報を提供して土地取得を助成したり、若者定住のために奨励金の支給や家賃補助を実施。単身者向け、家族向けの定住促進住宅や譲渡型の子育て支援住宅の整備も進めている。



## くずまき山村留学制度

町が県立葛巻高等学校(全日制普通科定員80人)の入学生確保に向けて2014年度に創設し、全国から毎年5人程度を募集。希望者は葛巻高の特別入学志願承認を受けた上で入試を受ける。留学生は自然体験や酪農体験、イベント事業体験などから希望するメニューを選んで研修を受ける。くずまき高原牧場の施設を学生寮として生活し、登下校には町がスクールバスを運行する。



# くずまき高原牧場

Kuzumaki Kougen Bokujou

## 体験メニュー多彩に 地域が誇る全国ブランド

牛の世話や乳しぼり、羊の毛刈り、アイスクリーム作り、石窯ピザ作り。くずまき高原牧場は自然に親しみ、命と触れ合う体験に満ちている。



スノーワンダーランドでかを合わせ、イグルー作りに挑戦する子どもたち＝2016年1月



牛の世話

「ふわふわしてる」。牛を優しくなでながら、えさやりをする子どもたち



くずまき高原牧場産の乳製品

約1800頭の草原や森の中に、牛舎や放牧地、乳製品の工場、ショップ、宿泊施設、イベントが楽しめるドームなどが整備され、町のグリーンツーリズムの拠点となっている。牧場の持つ魅力をまるごと楽しめる多彩な体験メニューを用意。休日の家族連れや観光客が参加するほか、学習旅行や視察も受け入れ、年間延べ30万人が訪れる。

季節の変化も学習の場として生かしている。標高700mで、冬季は積雪がおよそ150cmにもなるが、その雪も資源に換えて、子どもたちが約2週間、雪中体験を繰り返す「スノーワンダーランド」事業も行っている。真冬の厳しい環境下で生き抜く知恵や仲間との絆を育み、一回り大きくなった子どもたちが、最終日は涙で仲間との別れを惜しみ「卒業」していく。町内の農家も協力し、数日間民泊も実施。地元の人たちと交流を深めている。

日本最大規模の公共牧場として、畜ふんを使ったバイオマスシステムや太陽光発電の設備を整え、エネルギーまでまかなう地域完全循環型食糧生産基地も視野に入れる。地球規模の「食糧・環境・エネルギー」問題の解決に挑む同町の取り組みを学ぶ場にもなるほか、IJUターンの促進の雇用の受け皿の役割も果たしている。

情報発信や商品販売などを通して、首都圏でもブランド力を高めてきた。同牧場交流製造部兼営業部の前原信人部長は「一方通行ではなく、今のニーズを見極め、変わるべきところを変えていく時期に来ている」といい、既存のサービスの見直しを進めているところだ。「まずは滞在中に良さを感じてもらい、継続的に来てもらえるように、さらに磨きをかけていきたい」と意気込む。

# くずまきワイン

Kuzumaki Wine

## 日本を代表する山ぶどうワインの生産に挑む

「日本一のシラカバ美林」といわれる  
県立自然公園・平庭高原にある「くずまきワイン」のワイナリー。



「飲む瞬間まで、おいしいまま届ける」と語る大久保圭祐製造部長



全国で愛される「くずまきワイン」



ワイナリー見学

「おいしいね」。工場の直売店ではワインや山ぶどうジュースの試飲が大人気

見渡す限りの雄大な自然のなかにひっそりとたたずむワイン色の屋根の建物には、観光客のほか県内外から多くの自治体や酒造関係者が視察研修に訪れる。

「山ぶどうでワインを作ろう」。1979年、「くずまきワイン」の歴史は始まった。山ぶどうは町民が滋養強壮や疲労回復などのため古くから愛飲してきた貴重な山の幸。「山の資源を生かし、町の新たな産業にして地域活性化に結びつけたい」と願ったことだった。86年に第三セクター・葛巻高原食品加工株式会社を設立。2年後にワイン製造を開始した。

しかし、発売当初の評価は「酸味が強すぎる」といまひとつ。通常のぶどうより鉄分、ポリフェノールを豊富に含む山ぶどうは、一方で酸とタンニンが強く、ワインに仕立てるには微妙なバランスが要求される。発売後数年間は赤字が続き、試行錯誤を繰り返した。鈴木重男町長が常務取締役就任した頃、「ミルクとワインのまち」のスローガンを守るべく、起死回生の策として取り組んだのが白ワインの開発だ。世間にワインブームが到来したこともあり、「くずまきワイン」全体の評価を高めるきっかけになった。

山ぶどうは品種改良を進め、酸味が少なくワインに適した品種が生まれた。98年には年間売上高3億円を突破し、累積赤字を解消。国内外のメーカーの研修に積極的に足を運んで醸造技術に磨きをかけ、国産ワインコンクールで入賞を果たすまでに成長した。

今では、山ぶどう100%のワインはもちろん、スパークリングワインやブランドデーもそろそろ。「お客さまが飲む瞬間まで、おいしく届けること」をモットーに、従業員一丸で品質向上と安定供給に取り組んでいる。同社の大久保圭祐製造部長は「日本古来の山ぶどうで日本を代表する究極のワインに挑戦していきたい」と熱意に燃える。

# 大自然に抱かれ、のびのび子育て

緑の大地、クリーンエネルギー、手厚い子育て支援策。そして、地域の人たちの温かいまなざし。理想の子育て環境を求めて葛巻での暮らしが始まった。



自然と共生した暮らしを葛巻町で実現した南館さん一家

県立高校教諭の南館晋さん(39)＝二戸市出身＝と、元小学校講師の則江さん(36)＝岩手町出身＝夫妻の自宅にはいつも子どもたちの元気な声が響いている。上から長女(8)、次女(7)、長男(4)、次男(2)の仲良し4人きょうだい。庭に出ると、サクラの木に登ったり、草の陰にいる虫を見つめたり、冬にはそり滑りをしたり、季節に合わせて遊びが変わる。好奇心も旺盛だ。「自然の中で子育てをしたい」と二人で描いた夢を葛巻でかなえた。

町役場の協力を受けながら2年かけてじっくり土地を探し、2013年に小屋瀬地区に木造2階建ての新居を構えた。晋さんは「夏は風の通り道で涼しく、氷点下20度にもなる冬でもまきストーブ一つで家全体が暖まる設計。リビングの窓の採光にも工夫を施してもらった」と話す。以前の生活と比べて光熱費は大幅に減った。

長女と次女が通う小屋瀬小は全校児童が21人。全学年が複式学級、長女の同級生は3人だ。則江さんは「授業中何度も発言する。子どもたち全員に活躍の場があり、毎日必ず主役になる」とほほ笑む。自然愛護少年団、陸上やサッカー、ユニホックの大会、子ども会、消防演習など年間を通してフル回転だ。晋さんも「一人一人をしっかり見てくれるので安心」と小規模校ならではの良さを実感している。

保育や医療の支援策も充実。保育料は年長組が無料、きょうだいの3人目以降も無料だ。医療費負担ゼロは高校3年生まで続く。クリーンエネルギーの先進地であることも移住を後押しした。「子どもと見る地域の未来が明るいから、震災後は特に考えるようになった」と則江さん。近くのくずまき高原牧場から羊毛を分けてもらって染色をしたり、雑穀入りおやつやレシビも増えた。地域の人々から教わる暮らしの知恵や文化が家族の時間をより豊かにしてくれる。

## 結婚・子育て応援メニュー

### 新婚ライフサポート金交付

婚姻届出時に夫婦とも45歳未満で町内に住所を持つ場合に、10万円分の「くずまき商品券」を交付。

### マタニティーライフサポート

妊婦に妊娠期間中の通院等の支援のため5万円を交付する。また、出産に伴う家族等の宿泊費用を1万円まで助成。

### 乳児等医療費助成

高校3年生まで医療費負担を全額助成。

### 妊産婦医療費助成

妊娠5カ月目から出産した翌月の末日までの医療費を所得などの制限なく全額助成。

### 不妊治療助成

県の特定不妊治療助成事業を受けた人に年間10万円を5年を限度に助成。

### 保育料一部無料化

年長児と、第3子以降(18歳未満のきょうだいから数えて)の保育料を無料化。

### くずまきキッズ予防接種

おたふくかぜ、みずぼうそう、ロタウイルス等任意の予防接種の費用を助成。

### エンゼルおむつ券交付

新生児におむつ購入券2万円分を交付。

### チャイルドシート貸出

子どもがいる家庭1世帯1台までチャイルドシートを無償で貸し出し。

### 奨学金制度

**葛巻育英会**  
葛巻高校へ入学する生徒と、葛巻高校から大学へ進学する生徒に奨学金を貸与。

**三浦梧楼(ごろう)育英会**  
葛巻高校を卒業し、国公立大学へ進学する生徒に奨学金を貸与。

### 看護師等養成就学資金貸付制度

看護師などの医療職種を目指す学生に、月額10万円の学費を貸し付ける。免許取得後、一定期間町が指定する医療機関等に勤務した場合、返済の一部または全額を免除。

### 放課後児童保育

小学校の空き教室などを利用して、放課後の児童を預かる。6年生まで受入れ可能。

### 子育て支援センター

母親サロン、子どもの遊びの広場、離乳食教室など多数のメニューを実施。育児相談にも応じている。

▶問い合わせ: 葛巻町・いらっしやい葛巻推進室 (0195-66-2111)

Iターン

くずまきライフ 美しく優しく



小野寺 望さん(28)  
くずまきワイン

くずまきワイン製造部の小野寺望さん(28)は同社に入社した4月から葛巻町で暮らし始めた。気仙沼市で生まれ、大船渡市で高校まで過ごした根っからの浜育ち。「空気も景色も食文化も、どれも新鮮」と葛巻での暮らしを満喫している。

昨年、岩手大大学院で博士後期課程を修了した理系女子。在学中は脳の発生学を専攻していたが「人の健康は食からきている」と、山ぶどうでワインを造る同社に興味を持った。

入居した町の定住促進住宅はオール電化で蓄熱暖房、エアコン付き。隣町まで出れば大きな買い物にも困らないし、コンビニ受け取りもできる。想像していた以上に不便はなかった。何より、慣れない田舎暮らしを心配してくれる周囲の優しさがうれしかった。

今は仕事を覚えるのに一杯だが、いずれは科学的視点からワインの品質向上やその基礎となる土壌分析などに携わるのが目標だ。

天体観測が趣味で、葛巻の星空の美しさに魅了された。「好奇心旺盛で、自然が大好きな人にはもってこいの町です」

Uターン

家族を育む温かいふるさと



神谷 尚宏さん(34)  
葛巻自動車整備工場

帰郷は9年前、長男の小学校入学の年だった。葛巻自動車整備工場の神谷尚宏さん(34)は「ここには地域のつながりがあり、祭りがある。一番落ち着く場所」と当時の決断を振り返る。

中学卒業後、盛岡市内に進学。仙台市の専門学校を経て県内企業に就職し約6年間勤務した。帰郷後は自動車整備士の経験を生かし、家族で営む葛巻自動車整備工場で働いている。社長は父親の義次さん。「両親から家に戻るように言われたことは一度もない」という。

工場裏に自宅があり、いとも家族の声が聞こえるにぎやかな環境で生まれ育った。今では事務所で母親の和代さんと妻の李恵さんが並んで仕事をしている。小学2年の次男は「ただいま」と学校からまっすぐ事務所に帰ってくる。中学3年になった長男が小学生の頃、くずまき秋まじりの太鼓を仕込んだのは義次さんだ。「自分が小さい頃と同じく、家族みんなで仕事をし、子育てをし、地域の行事に参加している。家族と過ごす時間をこれからも大切にしていきたい」と感謝を込める。

山村留学

新しい仲間と共に夢広げ



(左から)大澤 然さん(葛巻高2年)、長津 裕稔さん(1年)、小田島 生瑠さん(同)、佐藤 ゆきなさん(同)

山村留學生の4人は、寮代わりにくずまき高原牧場の宿泊施設「くずまき交流館プラトリー」に住み、スクールバスで葛巻高に通学している。神戸市出身の2年生、大澤然さんは「くずまき山村留学制度」で入学した最初の生徒だ。「将来は酪農の仕事をしたかったので、勉強のために来た」と夢を広げる。土日は同牧場の牛舎で手伝いをしながら現場経験を重ねている。「クラスのみんなもフレンドリーで親友もできた」とにっこり。

今年、新入生3人を迎えた。神奈川県出身の1年生、佐藤ゆきなさんは「動物が好きなので将来は水族館で仕事をしたい。家族に成長したね」と言われるよう頑張りたいと笑顔を見せる。北海道出身の長津裕稔さんはバスケットボール部、県内出身の小田島生瑠さんは、大澤さんと同じ陸上部に入学し各自目標を持って高校生活を送っている。

スクールバスや学校給食などサポートも手厚く安心だという。4人は「来年はもっと仲間が増えてほしい」と留学の広がりに期待を寄せる。

移住定住応援メニュー

IJUターン

地域情報通信基盤施設加入奨励

IJUターン者が、町内に定住する際に必要な情報通信基盤施設加入負担金(ケーブルテレビ等)6万3000円を全額補助する。

空き家リフォーム支援事業

IJUターン者が、転入から1年以内に空き家を移住目的で取得、またはリフォームする場合に費用の1/2、最高20万円を交付する。

空き家活用奨励

IJUターン者へ空き家を提供する物件所有者に5万円を交付。

定住促進住宅

町外から移住しようとする若者等に住まいを提供。家賃は年齢や家族構成によって月額5000円~3万円。町内に3カ所あり、今後も新たに建設予定。入居状況や間取りなどは町のホームページに掲載されている。

若者定住家賃助成

40歳未満の若者が月額家賃3万1000円以上の町内の民間アパートに入居している場合に家賃の一部を商品券で助成する。

若者定住奨励事業

若者世代、特に子ども連れ家族の受け入れを促進するため、45歳未満の定住世帯に対して15万円の奨励金を支給する。さらに中学生以下の子どものいる場合、子ども一人について5万円を加算する。単身世帯の支給額は5万円。

土地取得助成事業

町内の土地所有者が提供可能な土地を町に登録し、町が定住希望者に土地情報を提供する。定住希望者は気に入った土地があれば住宅用地として取得できる。町は基準を満たす定住者一世帯につき奨励金30万円を支給する。

くずまき山村留学制度

岩手県外から県立葛巻高等学校(全日制普通科定員80人)に入学する生徒を山村留学として受け入れる。くずまき高原牧場内にある宿泊施設「くずまき交流館プラトリー」を学生寮として提供。月額2万円。3食付き(朝食・夕食はプラトリーのレストランで、昼食は学校給食を提供する)。



# くずまき 秋まつり

「ヤーレ、ヤーレ」のかけ声とともに、風流山車や郷土芸能が町中心部をにぎやかに練り歩く。夜には山車のライトアップも楽しめる。9月に2日間にわたって開かれる



# くずまき ジェラート

町内の女性酪農家のグループが起業支援などを受けて開店し、運営している。新鮮な牛乳や果物を使った商品を開発し、6次産業化のモデルとしても注目を集めている

## 総合運動公園



グリーンの上で元気いっぱい走り回る子どもたち。人工芝サッカーコート、陸上トラックのほか、野球場、テニスコートも完備

## 全日本薪積み選手権



林業が盛んな町内では毎年秋に「全日本薪積み選手権大会」を開催している。参加者が薪積みの「造形」を競い、熱戦を繰り広げる



## ふれあい宿舎 グリーンステージ

大自然に囲まれた欧州風の外観の宿泊施設。「緑の舞台(グリーンステージ)」から名付けた。周辺には総合運動公園や野球場などがある。袖山高原にも近い

日々の暮らしにちりばめられた葛巻町ならではの魅力を再発見。  
住民が大切に守ってきた伝統文化や産業、交流拠点、  
子どもたちの元気な姿は未来への贈り物だ。



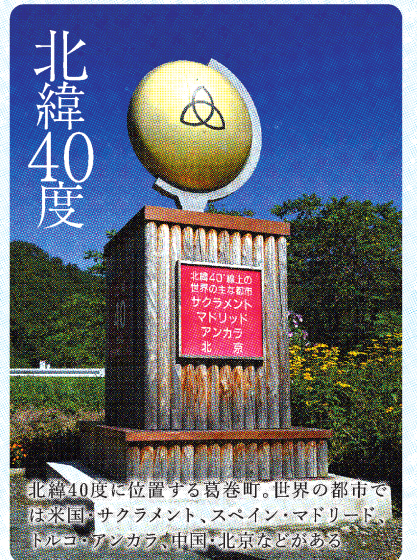
## ラベンダー畑

くずまき高原牧場のラベンダー畑。花摘み体験は人気メニューの一つ



## 子ども広場

ふれあい宿舎グリーンステージに隣接。鮮やかな芝生の上で、木製のアスレチックでダイナミックな遊びが楽しめる。家族連れに人気のスポット



## 北緯40度

北緯40度に位置する葛巻町。世界の都市では米国・サクラメント、スペイン・マドリッド、トルコ・アンカラ、中国・北京などがある



## 牛飼い女子

「東北一の酪農郷」として知られる葛巻町。地元の酪農家の女性たちがグループをつくって産地PRや経営力の向上を目指す研修会、交流活動などを行い、魅力を発信している



## そば文化

冷涼な気候がおいしいそばを育てる。町内では古くからそばを使った食文化が根付いている。三角型に切ったそばかけは、ゆででニンニクみそなどお好みの薬味をのせてどうぞ